

2019年度会務総括報告

2019年度事業ならびに会務運営は、2018年度第5回理事会において承認（2019年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

総会学術大会の英語化については、引き続き Cypos と発表スライドの完全英語化を実施し、英語口述発表は約44%を維持できた。国際化では、第75回総会学術大会にて Overseas visitor conference を開催して学術交流を推進した。また、中華医学会影像技術学会（CSIT）、大韓放射線科学会（KSRS）、タイ医学物理学会（TMPS）ならびに中華民国医事放射学会（TWSRT）と引き続き学術交流を行った。外務省や国際協力機構などの後援を得て進めている東南アジア教育支援事業において、2019年11月に現地大学の教員の教育を目的にワークショップを開催し、多くの参加者で成功裏に終えることができた。

一方、学際化では、日本放射線看護学会（RSNJ）との共同研究をスタートし、第75回総会学術大会等では日本循環器学会（JCS）とジョイントセッションを開催した。

市民公開シンポジウム、市民公開講座を開催して研究成果を一般市民へ積極的に還元した。また、学会事業評価委員会による2018年度の事業評価結果を委員会、部会、支部の2019年度事業にフィードバックした。

2019年度末の正会員数は17,180名であり、2018年度末の正会員数と比べてわずかであるが減少し、2018年度に続き減少となった。学生会員は277名となり2018年度末と比べて微増した。また、総会学術大会では4,730人を、秋季学術大会では2,050人を超える多くの会員が参加し、大盛会であった。

会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会事業が順調に執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2019年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第75回総会学術大会は2019年4月11日（木）～14日（日）の4日間、石田大会長のもと開催した。一般研究発表演題は543題、参加登録者数は4,737名であった。

第76回総会学術大会は2020年4月9日（木）～12日（日）の4日間、奥田保男大会長のもとパシフィック横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

(2) 秋季学術大会の開催

第47回秋季学術大会を2019年10月17日（木）～19日（土）の3日間、福西康修大会長のもと大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）（大阪市）にてJRC協賛、日本医療情報学会の後援で開催した。一般研究発表は387題、学術班研究報告6題、参加者は2,054名であった。

第48回秋季学術大会を2020年10月15日（木）～17日（土）の3日間、飯田紀世一大会長のもと東京ファッションタウン（TFT）ビル（東京都江東区）で開催すべく準備を進めた。

(3) 第4回国際放射線技術科学会議（ICRST）の開催

第47回秋季学術大会に併催し、2019年10月18日（金）に福西康修大会長のもと開催した。6か国の海外演者を招聘して教育講演、シンポジウム、ランチョンを開催し、参加者は延べ220名であった。

(4) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの部会が春秋の学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門部会、地方支部共催で、画像部会は医用画像処理プログラミングセミナーと、ROCセミナー、DRセミナー、臨床画像評価セミナーを、核医学部会は核医学技術研修会と2回の核医学画像セミナーを、放射線治療部会は3回の放射線治療セミナーを、撮影部会は2回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、CT応用セミナー、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー、

実地で学ぶMRI安全管理セミナーを、計測部会は簡易線量計作製セミナーを、放射線防護部会は2回の医療放射線リスクコミュニケーションセミナーを、医療情報部会は2回のPACS Specialistセミナー、PACSベーシックセミナーを行った。

(5) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラム、セミナーなどを開催した。学術大会については、北海道支部は4月に北海道支部第75回春季大会、11月に北海道支部第75回秋季大会を、東北支部は10月に東北支部第57回学術大会を、関東支部は11月に第66回関東支部研究発表大会を、東京支部は5月に第73回東京支部春期学術大会、11月に第36回東京支部秋季学術大会を、中部支部は11月に第54回中部支部学術大会を、近畿支部は12月に第63回近畿支部学術大会を、中国・四国支部は9月に第60回中国・四国支部学術大会を、九州支部は11月に第68回九州支部学術大会を開催した。

(6) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした2019年度市民公開講座を、科学研究費補助金を得て「専門家と学ぼう！放射線事故・災害時に自分でできる放射線防護－良い事 vs. ダメな事－」のテーマで出雲市において開催した。また、2019年度市民公開シンポジウムを「頭痛い！こんな症状は要注意ですよー早く見つけて元気に長生きー」のテーマで京都市において、2019年度中高生対象メディカルサイエンス講座を「レントゲン写真のこゝろ、もっと知りたい！ー」のテーマで東京都港区において、ならびに2019年度JSRT-JART合同市民公開講座を「心臓を健康に！～動き続ける心臓と向き合うために！！」のテーマで岡山市において開催した。

(7) フォーラムの開催

広報、啓発を目的に放射線防護委員会は第75回総会学術大会時に放射線防護フォーラムを、標準規格委員会は第75回総会学術大会時及び第47回秋季学術大会時に標準化フォーラムを、関係法令委員会は第75回総会学術大会時及び第47回秋季学術大会時に放射線管理フォーラムを、医療安全委員会は第75回総会学術大会時ならびに第47回秋季学術大会時に医療安全フォーラムを開催した。また、放射線防護委員会と医療安全委員会は第47回秋季学術大会時に合同フォーラムを開催した。

2. 刊行広報事業；公2

(1) 学会誌の発行

2019年1月～12月で掲載論文数が72編（昨年は同期間で78編）となった。学会誌第75巻1号～第75巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。

(2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第12巻1号を2019年3月20日付、2号を2019年6月20日付、3号を2019年9月20日付、4号を2019年12月20日付で発行した。掲載論文数の合計は53編となった。

(3) 出版活動

放射線医療技術学叢書（27）「X線CT撮影における標準化～GALACTIC改訂2版」の英語版の電子出版を行った。また、放射線スキルアップシリーズの「放射線生物学（改訂3版）」を発刊した。

(4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を発行した。北海道支部は北海道放射線技術雑誌をVol. 86, Vol. 87を、東北支部は東北支部雑誌第30号を、関東支部は関東支部雑誌22号を、東京支部は東京支部雑誌Vol. 134を、中部支部は中部支部雑誌Vol. 21を、近畿支部は近畿支部雑誌Vol. 25 No. 1, No. 2, No. 3を、九州支部は九州支部雑誌Vol. 18を発行した。

(5) 部会雑誌の発行

春秋の学術大会に合わせて各部会において部会雑誌を発行した。

(6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公3

学術調査研究班 16 班を編成して積極的な学術活動を行った。また、3 つの JIS 原案（JIS Z 4751-2-43, JIS Z 4751-2-54, JIS Z 4752-3-5）作成について審議した。

関係法令（RI 法、医療法等）の改正および医療現場の対応に関する動向を調査するとともに適正な医療放射線管理体系の構築に資する活動を実施した。また、医療安全チェックシートのルーブリック評価を策定し学会ホームページに掲載した。

第 75 回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」8 講座、「専門編」7 講座ならびに教育講座を、第 47 回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」10 講座、「専門編」5 講座ならびに教育講座を開催した。また、医用統計編、医用統計の続編、画像を読み解く（心臓編）ならびに放射線治療における線量計測編の e-learning のコンテンツを作成した。

4. 研究奨励事業；公4

規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。

北海道支部は、学術賞、学術奨励賞、優秀研究賞などの表彰を行った。東北支部は功労賞、学術奨励賞を行った。関東支部は、研究助成ならびに技術奨励賞、新人賞などの表彰を行った。東京支部は、学術奨励賞、新人研究奨励賞の表彰を行った。中部支部は功労賞、奨励賞の表彰を行った。中国・四国支部は、奨励、支部長賞の表彰を行った。九州支部は、派遣助成、英語発表助成ならびに支部学術賞、支部功労賞、支部研究奨励賞などの表彰を行った。

5. 連携交流事業；公5

(1) 国内

- ① 関連学協会への委員の派遣ならびに共催・協賛・後援含めて関連学協会への協力を行った。
 - (a) JIRA と協力し、基準委員会活動としての JIS 原案ならびに認証基準に係る最終審議を行った。
 - (b) 医療情報の標準化を目的に日本 IHE 協会、HELICS 協議会、医療情報標準化協議会、DICOM 委員会などにて医療情報の標準化およびガイドラインについて協議した。
- ② JRC 理事会に役員を 6 名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。
- ③ 医療被ばく研究情報ネットワークに参画し、診断参考レベルについて関連学会と連携をとりつつ、普及や検討に努めた。
- ④ 公益社団法人 日本診療放射線技師会と懇談会を 2 回開催し、合同市民公開講座を 1 回開催した。
- ⑤ 公益社団法人 日本医学物理学会と懇談会を 2 回開催した。

(2) 海外

国際研究集会への派遣（13 名）ならびに本学会と交流のある海外学会への派遣（12 名）を行った。

第 75 回総会学術大会に中華医学会影像技術学会(CSIT)から役員 3 名を招聘した。また、中華医学会影像技術学会(CSIT)第 27 回総会学術大会(11 月)に役員 1 名、中華民國醫事放射學會(TWSRT)第 52 次年学術大会(3 月)に役員 2 名、大韓放射線科学会(KSRS)に 1 名を派遣して学術交流をおこなった。